市内外から多くの来賓を迎えて行われた記念式典

芦別120周年・市制施行60周年

新たな飛躍を誓い 記念式典を挙行

10月19日、芦別120周年・市制施行60周年記念式典が、市民会館で挙行され、先人の労苦を偲ぶとともに、未来への新たな飛躍を誓いました。

式典には、市民の皆さんや市外からの来賓約600人が参加。芦別の礎を築いた先人に黙とうをささげた後、清澤茂宏市長が、「明治26年、山形県人・佐藤伝次郎氏が芦別に開拓の鍬を入れてから120年、また、昭和28年に市制が施行されてから60年という節目の年を迎えました。現在、本市は平成22年度からスタートした第5次芦別市総合計画に基づき、豊かな自然の中で、だれもが住み続けたいと思えるまちづくりを推進しています。そして、この星の降る里芦別に住む一人ひとりが郷土を愛し、誇りに思い、真に住んで良かったと実感できるまちづくりの実現に向け、全身全霊を傾けていきたいと考えています」と式辞を述べました。

式典後は、芦別にゆかりのある評論家の寺島実郎さんが記念講演を行ったほか、芦別出身の㈱アークス代表取締役社長横山清さんらによる「ふるさとトーク」が行われました。

記念講演

寺島（てらしま）　実郎（じつろう）氏
（一般財団法人日本総合研究所理事長）

「世界の構造変化と北海道の21世紀 ～地域活性化をどう考えるか？」

1947（昭和22）年、北海道生まれ。幼少期に芦別で育つ。現在、㈱三井物産戦略研究所会長、（一財）日本総合研究所理事長、多摩大学学長など、政府審議会委員なども務める。ニュースコメンテーターとしてテレビ出演や著作も多数。

世界史の中で見ると、北海道とロシア極東とは、双生児のような関係だ。日本の明治維新前、ロシアは極東地域に農業者を移民させ、東方への進出を企てた。そのロシアの進出に対して危機感を抱いた当時の江戸幕府が、蝦夷地を守らなければならないということで北方警備に力を入れ始め、その後、明治新政府によって、北海道開拓が進められた。日本の近代史の扉を開いたのは、アメリカではなくロシアであり、そして現代、再びロシアが重要なポイントとなっている。

その前段として世界のエネルギー事情についてみていきたい。ヨーロッパ諸国は長年ロシアにエネルギー供給を依存してきたが、そこから脱却しようとしている。また、アメリカでは産油国である中東地域への影響力が弱まっている一方で、国内での原油生産量が増えてきた。そこで中東地域にエネルギーを依存している日本はエネルギー安全保障の観点から、エネルギー供給源をロシアに求めていかなければならないという意識がある。一方のロシアも日本に対してエネルギーを売りたいという意識が高まってきている。日本は産業用電力コストがアメリカやヨーロッパに比べて非常に高い。原油価格の高騰もあって、エネルギー源を再び石炭に求める動きも出始めている。そこで、北海道はエネルギー、流通の面でも重要な役割を担うことになる。ロシアでの農業プロジェクトも始まっている。

北海道が日本で優位性を高められるのは、エネルギー、そして食と観光だ。まず、安いエネルギーコストを前提とした産業基盤をつくらなければならない。食と観光については、ただ単純に食糧自給率が高いというだけでなく、戦略的な視点から考えていかなければならない。自然が素晴らしい、食事がおいしいだけではなく、どうしてもそこに行かなければならない、という意識付けが必要だ。例えば農業でいえば、北海道には非常に高い農業技術がある。海外から人を引きつけるというような研究機関、教育機関などを設けて人材を呼び寄せていくことも一例としてあげられる。

芦別は、わたしが住んでいた頃と比べると随分人口が減ったが、人口が減ることをもって活性化につなげるくらいのしたたかな戦略が問われている。それにはさまざまな視点が必要だ。ある種のポテンシャル（潜在能力）も感じるので期待したい。

ふるさとトーク

芦別の思い出・これからの芦別へ

本市出身で㈱アークス代表取締役社長の横山清さん、芦別商工会議所会頭の坂田憲正さん、芦別青年会議所理事長の石岡祐二さんに、「芦別の思い出・これからの芦別へ」をテーマに、それぞれふるさと・芦別への思いを語っていただきました。コーディネーターは清澤市長が務めました。

○参加者○

アークス代表取締役社長
横山（よこやま）　清（きよし）氏

芦別商工会議所会頭
坂田（さかた）　憲正（のりまさ）氏

芦別青年会議所理事長
石岡（いしおか）　祐二（ゆうじ）氏

コーディネーター
芦別市長　清澤（きよさわ）　茂宏（しげひろ）

清澤　芦別はさまざまな方面で活躍されている人材を多く輩出しているな、と感じます。横山さんもそのお一人でありまして、まずは横山さんからお話しをうかがいたいと思います。

横山　この式典が始まる前に母方の実家のある新城へ行ってきました。子どもの頃木登りをした木がまだ残っていて、本当に懐かしく思いました。あらためて芦別の素晴らしさを感じましたが、これを将来にどうつなげるか、市長もたいへんだと思いますが…。経済環境が変化する中で、わたしはスーパーマーケットを経営しているわけですが、自分のスキルを高めながら地域で力を発揮していく、芦別人は十分その能力を持っていると思います。

〈よこやま・きよし〉1935（昭和10）年芦別市生まれ。北海道大学水産学部卒業後、大丸スーパーに入社し、85年社長に就任。89年、合併によりラルズ社長、2002年に企業統合によりアークス社長。

清澤　皆さん芦別生まれでさまざまな方面でご活躍されていますが、石岡さんと坂田さんは、学生時代に芦別を離れ、またこうして芦別で仕事をされているわけですが、当時の将来像というものを考えていらしたんでしょうか。

石岡　高校時代にホテルマンをやってみたいと思って専門学校へ進み、ホテル勤務などを経験しましたが、怪我をしたのをきっかけに、父からの助言もあって実家の会社を手伝おうと思いました。

〈さかた・のりまさ〉1947（昭和22）年芦別市生まれ。成城大学卒業後、日成建設に入社。常務を経て79年社長に就任。現在、芦別商工会議所会頭のほか日本商工会議所地域活性化委員会委員などを務める。

清澤　最近、農業者の方も芦別に戻ってこられる方が増え、ふるさとに帰ってきてくれる気持ちがうれしいなと思います。

坂田　わたしは学生時代、帰省すると仕事の手伝いをしていたので、帰ってきて何の違和感もなかったですね。

清澤　横山さんはいかがですか。

横山　わたしは、大学へ進みましたけれども、学問をするより実業を身に付けたいという気持ちが強かったですね。高度経済成長のときは、登山的思想でよかったですけれども、芦別でいえば人口が減ってきたときに、また高齢化社会にどう対応するか、下山的な思想が必要ですね。

〈いしおか・ゆうじ〉1976（昭和51）年芦別市生まれ。札幌市内でホテル勤務、アパレル業などを経て、2001年蛍文堂に入社し、社長に就任。13年より芦別青年会議所理事長。企業誘致委員会委員なども務める。

〈きよさわ・しげひろ〉1962（昭和37）年芦別市生まれ。芦別高校卒業後会社員、会社役員。市議を1期務めた後、2011（平成23）年市長に当選。

清澤　さて、今後の芦別のまちづくりについて、行政に対する期待や注文をお話しくださればと思います。

石岡　青年会議所の活動を通してさまざまな方と交流し、ご協力もいただき感謝しています。イベントのいくつかがなくなったりしていますが、まちの人たちが楽しみにできる何かを考えていきたいと思います。

坂田　商工業界だけが頑張ろうとしても限界があります。どうしても行政、市民の方との連携が必要です。いわば車の両輪として今後活動していきたい。

清澤　車の両輪ではなく、市民、議会も含めた4輪駆動でいきたい。最後に横山さん、今後の芦別に対して、「頑張れ」という期待もこめてお話しください。

横山　「頑張れ」と言いたいですけど、わたしはむしろ「頑張るな」と言いたいですね。「頑張る」ということは、どうしても良い時代、状況のことを思い出してしまうわけですよ。これからの時代、今あるものをきちんと環境整備しながらお互い助け合って生きる。こういう生き方ができると思います。小さくてもキラリと光る芦別をどうつくっていくか。せっかく良い人材、素材が芦別にはあるんですから、良いものは残し、余計なものは排除していく。住んでいる人が明るく前向きに生きてほしいですね。そのために、わたしもできる限り力になりたいと思っています。

清澤　今日は貴重なお話しをいただき、誠にありがとうございました。

芦別120周年・市制施行60周年記念式典において、長年にわたり各分野で活躍され、市政振興や商工業振興、社会福祉の発展向上などに寄与された方々を表彰したほか、記念標語最優秀賞を受賞した児童・生徒に表彰盾を贈りました（敬称略）。

■功労者表彰

○議会議員
矢口弘良、滝口昇、土谷喜文、松井邦男、松田保

○公平委員
沼田孝記

○農業委員
髙瀬克己

○農業委員及び統計調査員
神下隆夫

○農業委員及び消防団員
中内紘治

○消防団員
小野寺徳雄、土山孝一、岡本秀夫、甲斐勝博、髙砂裕司

○統計調査員
大谷求、吉島香月、荒木進

○議会議員及び身体障がい者相談員
岡部規子

○公平委員及び学校歯科医
土山久男

○消防団員及び芦別商工会議所議員・役員
髙瀬敏光

○芦別商工会議所議員・役員
瀬戸一郎

○民生委員児童委員
藤井惠美子、小竹多美子

○社会福祉施設の職員及び役員
武田貞信

○社会福祉施設の職員
田中優一

■特別表彰

○消防施設等整備に活用する資金及び企業振興に活用する資金として多額の金員を寄付
小林英一

○文化財保護事業に活用する資金として多額の金員を寄付
大橋光子

○地域振興資金として多額の金員を寄付
北日本精機株式会社

○花と木・緑化推進資金として多額の金員を寄付
サンスイ機工株式会社

表彰された記念標語と最優秀賞受賞者

①環境にやさしく、快適で安心して暮らせるまち
「ほしいっぱい　自ぜんいっぱい　芦別市」　芦別小学校5年　松田　渚

②いきいきとした産業がきらめくまち
「ぼくたちの　未来が見える　まちづくり」　芦別小学校5年　菊地唯人

③健康にみちあふれ、生活を支えあうぬくもりのまち
「老若男女　力を合わせて　支え合おう！」　啓成中学校1年　今野健介

④健やかで心豊かに学べるまち
「こころが　キラキラな　あしべつ!!」　上芦別小学校2年　佐々木遥珂

指揮者先頭

No. 17

指揮者先頭とは、「指揮者は常に皆の先頭に立って行動する必要がある。」という意味で、私が考えた大切にしている言葉です。

10月から11月にかけてのこの時期はまさに「秋冬」とでも言うのでしょうか？　これから向かう冬の生活に備えて大忙しの毎日です。

今年は芦別120周年・市制施行60周年の記念すべき年ということもあり、市民会館で行われた記念事業には多くの市民の皆様にご参加いただきました。また、10月19日に開催された記念式典には、市内はもとより、道内外から多くの皆様にご出席いただき盛大に執り行われました。

人と人とのつながりや絆にあらためて感謝を申し上げます。多くの皆さんが街中に集っていただくことがまちの「にぎわい」にもつながると認識したのも事実ですので、この記念の年を新たな契機として、元気な芦別を創り上げたいと考えています。

気がつけば今年も残りわずか、そんな時期になってきました。皆様方にはお体をご自愛いただきますようご祈念申し上げます。

（平成25年10月20日・記）

芦別市長　清澤　茂宏

9月30日、中空知広域圏組合の戸籍電算管理システムの稼働式が芦別市役所で行われ、加盟する市長、町長が集まりました